



株主通信

2020年12月期第3四半期業績のご報告

(2019年10月1日～2020年6月30日)

本株主通信は2020年6月末時点での株主の皆様にお送りいたしますことをご了承ください。

株主・投資家の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

当第3四半期累計期間の世界経済は、新型コロナウイルス感染症との共存を目指す方針のもと、経済活動が段階的に再開されたことで、景況感に底打ちの兆しが見られましたが、いまだヒト・モノの移動制限が多い上、大国間の通商摩擦への懸念等から低調となりました。

半導体市場におきましては、車載デバイス等の最終アプリケーションが個人消費に依存する一部の分野において低調となりましたが、在宅勤務、オンライン会議、キャッシュレス決済等の普及によりデータセンター関連の需要がメモリ・非メモリを問わず高まりました。また、次世代通信規格(5G)や人工知能(AI)、IoT等、将来の半導体消費をけん引すると目される分野においても、需要は底堅く推移しました。

FPD市場におきましては、ステイホームが広まったことに加え、補助金の効果等もあり、大型液晶テレビの需要が高まりました。

このような状況のもと、当社のメモリ向けプロブカードの需要が高水準であった他、プロブユニットの売上也堅調となりました。

この結果、当第3四半期累計期間の経営成績は、売上高23,700百万円、営業利益1,874百万円、経常利益1,953百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益1,617百万円となりました。

新型コロナウイルス感染症の状況につきましては、8月24日現在、当社グループ社員に感染者は確認されておらず、主な生産拠点であります青森工場、青森松崎工場、大分テクノロジーラボラトリー、MEK(韓国現地法人)も、通常通り稼働しております。当社グループは、社員及びお客さまをはじめとするステークホルダーの皆様や健康を最優先するとともに、製品やサービスの供給、提供に向けて責任ある対応に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

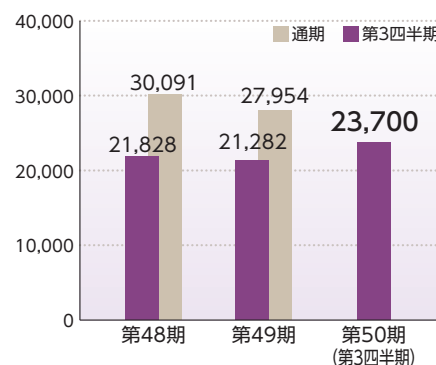
2020年9月

代表取締役社長 **長谷川 正義**

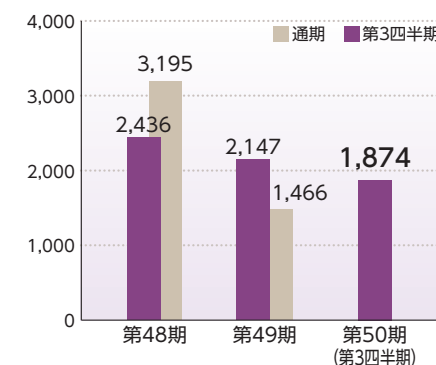
※「新型コロナウイルスへの当社の対応」についての詳しい情報は、当社ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.mjc.co.jp/>

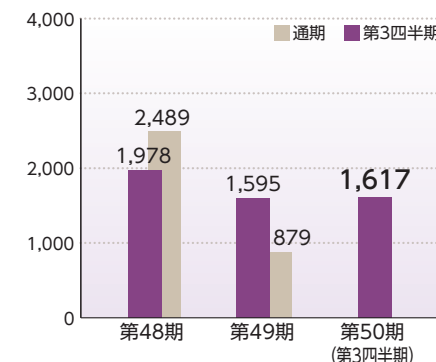
売上高(百万円)



営業利益(百万円)



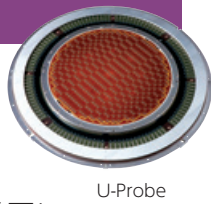
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益(百万円)



営業の概況

プローブカード事業

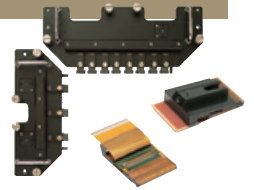
売上高は、ロジック向けが低調でしたが、メモリ向けが旺盛なデータセンター関連需要を背景に好調に推移し、総じて増加しました。一方、利益面におきましては、決算期統一により連結子会社の連結対象期間を12ヶ月間としている影響等で、コストが一時的に増加しました。この結果、売上高は22,235百万円、セグメント利益は3,347百万円となりました。



U-Probe

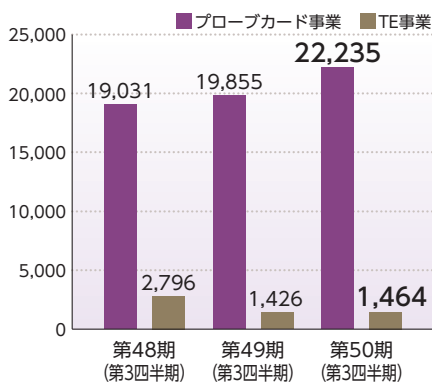
TE事業

売上高は、プローブユニットは安定的なビジネスを継続していることから堅調に推移しましたが、FPD及び半導体関連の装置が引き続き低調となりました。この結果、売上高は1,464百万円、セグメント利益は82百万円となりました。

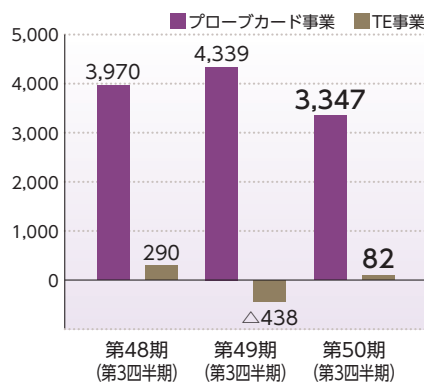


プローブユニット

セグメント別売上高(百万円)

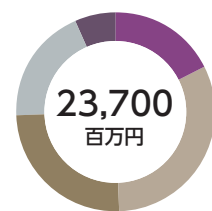


セグメント損益(百万円)



※セグメント利益には、全社費用は含まれません。

地域別売上高構成比(百万円)



■ 日本	4,159 (17.5%)
■ 韓国	7,582 (32.0%)
■ 台湾	5,935 (25.0%)
■ その他アジア	4,518 (19.1%)
■ 欧州・米国	1,506 (6.4%)

業績・配当予想 (2020年8月11日現在)

売上高		営業利益		親会社株主に帰属する四半期/当期純利益		1株当たり配当額	
第4四半期 (累計)	32,700 百万円	第4四半期 (累計)	2,700 百万円	第4四半期 (累計)	2,200 百万円	第5四半期 (通期)	22 円
第5四半期 (通期)	42,000 百万円	第5四半期 (通期)	3,600 百万円	第5四半期 (通期)	2,900 百万円		

*決算期変更により、当期は15ヶ月(5四半期)決算となります。したがって、第4四半期(累計)は通期ではございません。



創業50周年を迎えるにあたり、5回にわたってMJCの歴史を振り返ります。

第3回「液晶パネルの品質を支えるMJCの検査機器」

当社は創業から15年後の1985年、半導体で培ったプロービング技術を活かし、液晶ディスプレイ検査装置1号機を完成させました。1989年のノートパソコン登場により、FPD*市場は拡大。当社の検査機器も活躍し、1997年にはアレイプローバ「LP-4500」が、FPDに関する優秀製品に贈られる「第2回アドバンスト・ディスプレイ・オブ・ザ・イヤー」を受賞しました。2000年代に入ると、液晶テレビの普及によりFPDの需要は一気に増加します。その生産拠点は日本から韓国・台湾・中国といった国々へ広がり、当社のFPD検査用プローバは世界標準機として多くの生産現場で採用されました。

その後、液晶テレビの大型・薄型化、モバイル機器の小型・高精細化等、技術はますます進化し、当社もラインナップの拡充や最新の技術で、液晶パネルの品質を支えてきました。

当社が送り出した製品は、今も多くの現場で活躍しています。



液晶パネル検査装置 LP-4500

*FPD:フラットパネル・ディスプレイ

株式事務についてのご案内

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 連絡先 東京都府中市日鋼町1-1 電話0120-232-711(通話料無料)
 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部



本社 〒180-8508 東京都武蔵野市吉祥寺本町2-6-8
 HPアドレス <https://www.mjc.co.jp/>